

平成29年度（平成28年度対象）

教育に関する事務の管理及び執行の  
状況の点検及び評価に関する報告書

平成29年11月

常陸太田市教育委員会

# 目 次

I. 教育委員会施策の点検・評価の概要	1
II. 施策別点検・評価	
教育委員会施策の点検・評価書（平成28年度事業）	6
(施策名)	
1 子育てへの支援	6
2 豊かな心の育成	7
3 魅力ある学校づくり	10
4 国際力の育成	15
5 多様な学習機会の支援	16
6 地域文化活動への支援	18
7 スポーツ・レクリエーション活動への支援	20
8 犯罪のないまちづくり	22
9 地産地消の推進	23
10 歴史資源の確保・活用	24
11 自然・観光資源の環境整備とネットワーク化	26
12 広域連携・交流の推進	27
参考 教育委員会の活動状況	28

# 平成29年度教育委員会施策の点検・評価(平成28年度事業)の概要

## 1. 趣旨

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第1項の規定に基づき、市教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う。

## 2. 点検・評価の目的

- 教育委員会における主要な施策や事務事業について点検・評価を行い、課題や取組みの方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- 点検・評価の結果について報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし市民に信頼される教育行政を推進する。

## 3. 点検・評価の対象

- 平成28年度施策を点検・評価する。
  - ・常陸太田市第5次総合計画後期基本計画における教育委員会所管の12施策

## 4. 点検・評価の方法

- 施策を構成する主な事務事業の評価を基に、施策の目標達成に向けた取組状況と成果の点検・評価を実施する。
- 学識経験者による教育行政評価委員が、施策評価や施策の改善点等について審議する。

### (1) 事務事業の評価

- 施策の目標達成のために行った主な事務事業について、その成果や課題を精査検証し評価する。
- 評価については、「a 期待した成果があった」、「b 一定の成果があった」及び「c 見直しや改善が必要」の3段階で評価する。

### (2) 施策の総合評価

- 事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を評価する。
- 評価については、「A 期待した成果があった」、「B 一定の成果があった」及び「C 見直しや改善が必要」の3段階で評価する。
- 今後の方向性を明確にするため、「課題と今後の方向」を記載する。

### (3) 学識経験者の知見の活用

○点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する教育行政評価委員の審議を行う。

○教育行政評価委員（敬称略）※

分野	氏名	所属等
学校教育	岩間 敦子	元学校長
社会教育	豊田 一	社会教育委員会議長
保護者関係	田辺 和子	市女性ネットワーク委員会委員長（瑞竜中）

（参考：H28）

分野	氏名	所属等
学校教育	村田 規	元学校長（元学校長会会長）
社会教育	益子 治	社会教育委員会議長
保護者関係	保田 郁美	市女性ネットワーク委員会委員長（太田小）

## 5. 点検・評価結果の公表等

### (1) 議会への提出

○点検・評価の結果について報告書を作成し、市議会に提出する。

### (2) 市民への公表

○報告書を市ホームページにより公表する。

## 6. 点検・評価結果の概要（H29年度（H28年度対象））

○主な事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を、「A 期待した成果があった」、「B 一定の成果があった」及び「C 見直しや改善が必要」の三段階で評価した。

### 総合計画における教育委員会所管の12施策（H29年度（H28年度対象））

	施策	総合評価	事務事業	評価
1	子育てへの支援 (2事業)	B	1 放課後子ども教室推進事業 2 市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	b a
2	豊かな心の育成 (6事業)	B	1 小中学生芸術鑑賞教室 2 学校図書館の充実 3 青少年健全育成市民の会 4 西山研修所管理運営事業 5 ブックスタート 6 あたたかな人づくり推進事業	b b b b b b
3	魅力ある学校づくり (9事業)	B	1 学校統廃合 2 通園・通学バス運行 3 遠距離通学費補助事業 4 活力ある学校づくり推進事業 5 里美小中学校整備 6 金砂郷統合中学校整備 7 TT特別配置 8 特別支援教育指導員配置 9 未来を拓く常陸太田っ子サイエンスプロジェクト事業	a b b b b b b b a
4	国際力の育成 (3事業)	B	1 中学生海外研修派遣 2 外国語講座（英語・中国語） 3 外国人に対する日本語講座	b b b
5	多様な学習機会の支援 (3事業)	B	1 公民館活動活性化対策 2 地域資源学習講座 3 子ども科学クラブの開催	b b a
6	地域文化活動への支援 (4事業)	B	1 生涯学習フェスティバル等の開催 2 美術展覧会開催 3 文化振興補助（芸能祭ほか） 4 市民交流センター管理運営	b b b b
7	スポーツ・レクリ	B	1 各種スポーツ大会の開催	b

	エーション活動への支援 (4事業)		2 市民体力づくり推進 3 スポーツ施設整備 4 温水プール運営	b b a
8	犯罪のないまちづくり (1事業)	B	1 子どもの安全対策強化	b
9	地産地消の推進 (1事業)	B	1 地産地消の推進事業	b
10	歴史資源の確保・活用 (5事業)	B	1 指定文化財公開推進 2 文化財保護普及啓発 3 指定文化財保存整備 4 郷土資料館整備事業 5 指定文化財等災害復旧事業	b b b a b
11	自然・観光資源の環境整備とネットワーク化 (4事業)	B	1 エコミュージアム活動の普及啓発活動事業 2 地域資源の再発見活動事業 3 地域資源の整備活動事業 4 地域資源の利活用資源事業	b b b b
12	広域連携・交流の推進 (1事業)	B	1 公共図書館広域相互利用	b

計43事業

## 7. 施策別点検・評価

○別紙「教育委員会施策の点検・評価書（平成28年度事業）」による。

## 8. スケジュール

○7月27日 各課等による「点検・評価書」原案作成を依頼



○8月25日 各課等の「点検・評価書」原案の取りまとめ



評価委員会提出用「点検・評価書」の作成（内部協議）



○11月6日 教育行政評価委員会の開催（外部評価）



「点検・評価に関する報告書」の作成



○11月22日 教育委員会定例会に提出



○12月1日 市議会定例会に提出（定例会初日に議場配布）

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	子育てへの支援		担当課	教育総務課・生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で安心して子どもを産み育てられるよう、地域ぐるみの子育て支援体制の充実を図る。</li> <li>・経済的支援や相談体制など、子育て家庭への支援対策の充実を図る。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・核家族化や少子化、高度情報化など子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、子育てへの不安が社会問題となっている。安心して子育てができる環境や子育て家庭へのよりきめ細やかな支援など、少子化・人口減少対策の一環として、地域ぐるみの子育て支援の一層の充実を図る必要がある。</li> <li>・子育て世代の経済的負担を軽減するため、市立幼稚園に通う第3子以降の園児の保育料について減免を実施。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	放課後子ども教室推進事業	・放課後の小学生の活動場所として、ボランティアが子どもたちの安全を見守りながら一緒に活動し、子どもたちが安心して自由に「学び」「体験」「交流」「遊び」ができる環境をつくる。	・市内全小学校区(13小学校区)で放課後子ども教室を実施し、うち7小学校区で週1回、6小学校区で週2回実施した。実施回数666回、参加児童数375人、ボランティア登録人数は163人であった。 ・市内の全小学校区で実施し、対象児童の93.1%が参加した。			b
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	・市立幼稚園に通う園児が第3子以降にあたる場合、保育料の全額免除。	・43名の減免申請があり、減免を認定した。(該当者100%)			a
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	放課後子ども教室推進事業	放課後子ども教室への参加率(%) (参加人数/対象人数)	96	95	93	b
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	減免認定者数	58	40	43	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室のボランティアの人数に偏りがあることから、円滑な事業推進を図るため、運営委員会や学校、ボランティアとして活動されている地域の方々の調整を行いながらボランティアの確保をすることが課題である。</li> <li>・児童クラブと連携を図るなかで、施設の離れているところ、参加人数の多いところの計画を熟考していきたい。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	少子化や共働き世帯の増加により幼稚園入園児童数が減少傾向にある中、第3子以降無料化の該当者数が前年度よりも増加している。子育て世帯にとって、経済的負担の軽減が図られている。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	教育総務課・生涯学習課・図書館
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる		
	第1項	未来を拓く人づくり		
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたち等が感性を磨き豊かな創造力を身につけられるよう、音楽や芸術活動、読書活動を推進する。</li> <li>市民の総意を結集し、連帯と協調によって青少年の健全育成を図る。</li> <li>絵本を通して親子が心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる。また、幼少の早い時期から本に親しんでもらう。</li> </ul>			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生に楽器演奏や演劇等を鑑賞させることにより、芸術への関心を高めさせ、感動の心、豊かな情操を涵養し、健全な青少年を育成していく。</li> <li>児童・生徒の読書活動を推進するため学校図書館の充実を図っている。</li> <li>核家族化・少子高齢化の進行・地縁的なつながりの希薄化・ゲームやインターネットの普及等により、地域社会と関わる機会の減少とともに犯罪に巻き込まれる危険性が増加している中、被害防止活動の推進とともに地域全体で子どもたちを見守る必要がある。</li> <li>ブックスタートにより、絵本と触れ合い、親子に本の楽しさを伝え、赤ちゃんの早い時期から本に触れることにより感情や想像力の向上を図っていく。</li> </ul>			
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果	評価
	小学生・中学生芸術鑑賞教室	<ul style="list-style-type: none"> <li>小学5・6年、中学1・2年を対象に市民交流センターにおいて楽器演奏や演劇等を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>芸術への関心をたかめさせ、感動の心、豊かな情操を涵養している。</li> </ul>	b
	学校図書館の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省の設定している学校図書館の図書標準冊数(学級数により異なる)を達成するため、計画的に図書を購入している。</li> <li>小学校の学校図書館へ専任司書の配置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度より、小・中学校全校で学校図書館の図書標準を達成している。</li> <li>平成24年度より、小学校全校に専任司書を配置し学校図書館の充実を図っている。</li> </ul>	b
	青少年健全育成市民の会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「青少年健全育成市民の会」の活動支援を行う。</li> <li>青少年主張作文の募集及び弁論大会の開催</li> <li>毎月第3日曜日の『家庭の日』の推進(絵画・標語等作品募集、自然体験事業の実施)</li> <li>『あいさつ・声かけ運動』の普及・推進</li> <li>青少年育成茨城県民会議との連携・協力</li> <li>地区推進協議会、町推進委員会における事業の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の会表彰要綱に基づく表彰(青少年9名、青少年指導者1名)</li> <li>機関紙『グリーンネックレス』の発行(2回)</li> <li>家庭の日絵画、標語等募集(応募総数657点)</li> <li>家庭の日推進講演会(参加者数300人)</li> <li>市内巡回パトロール(2回延9人参加)</li> <li>視察研修(参加者数14人)</li> <li>青少年の主張作文193点</li> <li>弁論大会(参加者数250人)</li> <li>『あいさつ・声かけ運動』等街頭キャンペーン(2回140人)</li> </ul>	b
西山研修所管理運営事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな地域資源を活用した共同生活訓練などを通して、成人及び青少年の人間形成を図るとともに、都市との交流を図り活力ある地域づくりに寄与するため西山研修所運営をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度は、利用者数33,235人(対前年度100.0% 平成27年度利用者数33,233人)で、震災前のピークであった平成22年度の33,851人と比較では、98.2%まで回復している。</li> </ul>	b	

事務事業の 成果と評価	ブックスタート	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康づくり推進課が実施する乳児健診(前期)時に、ボランティアによる読み聞かせを実施した後、ブックスタートパックをプレゼントする。</li> </ul> 《ブックスタートパック》 (絵本2冊, ブックスタートのしおり等布製バッグに入れたもの)	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵本を通して親子が心ふれあうひとときをもつきっかけをつくることができました。</li> </ul> 平成28年度対象者…232人 平成28年度受領者…222人	b		
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	小学生・中学生芸術鑑賞教室	参加した児童生徒数(人)	1,776	1,680	1,574	b
	学校図書館の充実	図書標準達成校数(校)	21	20	20	b
	青少年健全育成市民の会	市民の会主催事業の参加者数(人)	1,582	1,498	1,563	b
	西山研修所管理運営事業	利用者数(人)	32,964	33,233	33,235	b
	ブックスタート	ブックスタートパック贈呈率(%)	94.6	97.4	95.7	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成27年度に小・中学校それぞれ「芸術鑑賞教室実施計画」を作成したので、鑑賞内容が偏らないよう計画的に実施していく。</li> <li>小学校全校に専任司書を配置したので、これまで以上に司書教諭と連携し、より魅力ある学校図書館を運営していく。</li> <li>インターネットの急速な普及とともに、近年、少年による重大な事件が発生する一方で、子どもが犯罪に巻き込まれる悲惨な事件も後を絶たない。子どもを非行や犯罪被害から守るためには、地域社会が一体となった取組がとても重要である。</li> <li>平成22年度から実施しているが、ブックスタート事業のPRに努め、対象赤ちゃんに兄弟姉妹と同じ絵本がプレゼントされないよう選書に配慮し、贈呈率の向上を図る。また、おはなし会やその他の図書館行事にも足を運んでもらい、幼少の早い時期から本に親しめるよう継続していく。家族みんなが本に興味を持ち、読書環境をつくることによって図書の利用向上を図られるよう推進していく。</li> </ul>					
教育行政 評価委員 による意見	芸術鑑賞については、ミュージカルや演劇、日本太鼓などの伝統音楽・和楽器など、多種多様な演目の中から選定がされている。新学習要領に対応し、引き続き伝統音楽を取り入れながら実施していただきたい。地域での子どもたちのあいさつが気持ちよい。学校教育のみならず社会教育の視点からも子どもたちのよいところをどんどん伸ばして行ってほしい。スマートフォンの時代で本離れが言われるが、ブックスタートは優しい感情や想像力の向上のために有効的で手厚い施策である。子どもたちが自分で好きな本を選べるような渡し方ができるとありがたい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	各学校の人権教育や、道徳、特別活動、生徒指導の充実を支援することによって、いじめや不登校等を未然防止、早期発見及び早期解決を図るとともに、児童生徒の内面的な実態や保護者等からの情報により積極的に児童生徒を支援し、自己有用感を高め、自他の生命を大切に、やさしい心をもってたくましく生きる児童生徒を育成する。					
現状と課題	・全小中学校で小学4年生から中学3年生までの全児童生徒に年2回のQ-U(よりよい学校生活と友達作りのためのアンケート)を実施するとともに、分析や活用について教員の研修を実施している。各学校や学級においては、児童生徒一人一人の実態を捉えた生徒指導や学級経営を行うなど、積極的に事業推進が図られている。また、地域や児童生徒の実態を踏まえた道徳、特別活動等の取組が効果的に位置づけられている。今後は、教職員の資質を高めるために、適切な分析のもと、児童生徒の自己有用感を高めて「夢育」を具現化するために具体的な施策を計画していく必要がある。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	あたたかな人づくり推進事業	規範意識の醸成と安心して学べる学校、学級づくりの推進	各学校が自校の実態把握と分析に努め、全職員による問題行動の未然防止を推進する。			b
		学校全体で取り組む道徳教育、人権教育の充実	学習指導や学級経営の基盤となる人権教育や道徳の推進により、豊かな心の育成に努めている。			
		親子ともみがき活動の展開による家庭教育の充実	親子ともみがき活動を家庭・地域との連携による教育効果の向上の機会と捉え、積極的に推進している。			
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	あたたかな人づくり推進事業	いじめ解消率	97%	99%	98%	b
		全国学力学習状況調査アンケート「人の気持ちができる人間になりたい」児童生徒割合 ※平成28年度質問内容変更「人が困っているときは、進んで助けていますか」	96%	96%	89%	
		全国学力学習状況調査アンケート「今住んでいる地域の行事に参加していますか」児童生徒割合	71%	57%	61%	
		「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合	94%	94%	93%	
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	・豊かな心の育成は、児童生徒一人一人の自己有用感を高めることが必須であり、数値からその取組の成果の一端が見られる。一方で、目に見える児童生徒の実態からは「積極的な実践力の不足」が課題としてあげられるとともに、100%から残った数値の部分に大きな支援をしなければならない実態も見えている。今後もいかに児童生徒一人一人に合った適切な指導を実践できるかが鍵となるので、児童生徒の実態を詳細に分析することと支援の手立てを組織で推進することが必要である。					
教育行政評価委員による意見	「今住んでいる地域の行事に参加しているか？」のアンケートで、61%が「はい」と答えたことは高い数値であると評価している。小中学生が地域の活動に参加することは地域の大人とのコミュニケーションが図られ、礼儀や挨拶など、人間的な視野が広がる。子どもたちの存在意識が行事を通して高まり、人のために役立つことで自己有用感の育成につながるものと感じている。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	教育総務課
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる		
	第1項	未来を拓く人づくり		
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児・児童・生徒の通園通学手段や安全を確保するため通園・通学バスを運行するとともに、遠距離通学する児童生徒の通学費を補助し、保護者の負担軽減を図る。</li> <li>・学校施設等の耐震化や老朽施設の改修整備を推進し、学校規模・配置の適正化を図る。</li> </ul>			
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童、生徒及び園児の数は、少子化の進行により減少し、複式学級や学級数の減少が進み、小・中学校や幼稚園においてこれらをできるだけ解消するため、統廃合の協議が進められている。</li> <li>・園児及び児童・生徒の安全確保や通学時間の短縮のため、また、幼稚園統合による園児の通園手段を確保するため通園・通学バス等を運行する。</li> <li>・遠距離通学する児童生徒の保護者の負担軽減を図るため、バス通学及び自転車通学者に対し通学費を助成する。</li> <li>・学校施設の耐震化や老朽施設の更新・整備等は計画的に進めているが、施設整備の前倒しや整備方針の変更など早急に完了する必要がある。</li> </ul>			
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果	評価
	学校統廃合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子化の影響で、園児・児童生徒数が減少し小規模化している。</li> <li>・小中学校等における仲間づくりや教育内容の質的充実を図るため、適正規模を確保し、より良い教育環境を整えていく必要がある。</li> <li>・将来的な園児・児童生徒数の推移や地域の地理的・歴史的な成り立ちによる生活圏等に配慮した市の全体的な適正配置に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設検討協議会より提出された意見書を踏まえ、水府地区小学校の統合と中学校との小中一貫教育の推進について、保護者や地区住民との意見調整を経て、平成30年4月の小学校統合について合意形成を図った。統合に係る諸事項の協議検討を図るため、保護者、学校、市教委で構成される統合調整会議を設置した。</li> </ul>	a
	通園・通学バス運行	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通園・通学バスの運行業務委託、タクシーによる送迎業務委託。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児及び児童・生徒の安全確保、通園・通学時間の短縮。</li> </ul>	b
	遠距離通学費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校：通学距離3km以上のバス通学者に対し、定期代全額補助。</li> <li>・中学校：通学距離6km以上のバス通学者に対し、定期代全額補助。また、通学距離6km以上の自転車通学者に対し、月額1,000円を補助。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠距離通学する児童生徒の保護者の負担軽減。</li> </ul>	b

事務事業の 成果と評価	里美小中学校整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・賀美小学校と小里小学校を統合整備し、現里美中学校校舎に接続した校舎を建設、小中一貫教育を目指す。さらに、里美地区の教育ゾーンを確立させ、規模適正化を図る。</li> <li>・構造：鉄筋コンクリート</li> <li>・階数：地上2階</li> <li>・延床面積：11,184.44㎡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里美小学校統合校舎建設について、平成28年度には、外構工事(敷地東側砕石敷き及びフェンス設置)を行ない、事業について完了となった。</li> </ul>			b
	金砂郷統合中学校整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・南中学校、北中学校を統合、中学校規模・配置の適正化を目指す、金砂郷統合中学校の校舎及び屋内運動場の整備を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎建築が完了し、平成28年度については屋内運動場建築のための設計を行った。さらには、屋内運動場建築予定とされている校舎跡の基礎について解体を行った。</li> </ul>			b
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	通園・通学バス運行	園児・児童・生徒の乗車人数	198	188	164	b
	遠距離通学費補助事業	補助実施者	144	275	360	b
	里美小中学校整備	事業進捗率(%)	94	99	100	b
	金砂郷統合中学校整備	事業進捗率(%)	30	67	70	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と 今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水府地区小学校の統合及び中学校との小中一貫教育の推進については、統合の期日、統合形式、統合校の位置について合意形成を図ることができたが、これに伴い、通学バスのダイヤや経路、通学に係る安全対策を講じる必要がある。これらについては、保護者や地域住民に対し、広く情報を発信しながら、意見調整を行っていくことが必要である。</li> <li>・通学バスについては、児童が減少している中、運行コストの抑制、子どもたちの体力や社会性の育成、地域の維持・振興に必要となる公共交通機関に対する影響を踏まえ、公共交通機関を核とする通学の在り方を進めていく。</li> <li>・施設の整備については、平成30年度から平成34年度にかけ、小中一貫教育学校の校舎及び屋内運動場の整備を行っていく予定であるが、補助金の認定等により予定期間が延びる可能性がある。</li> <li>・耐震改修及び耐震化においては、統合をした金砂郷中学校屋内運動場以外のすべての建物において、耐震化完了予定年度の平成27年度を1年前倒して平成26年度までに完了した。金砂郷中学校屋内運動場については、平成29年度改築を行っており、現屋内運動場について平成30年度取り壊しを行い、学校施設の耐震化については<b>100%(事業完了)</b>となる。</li> <li>・里美小中学校整備については、平成25年度に中学校に隣接した小学校校舎を建設し、平成26年度当初に小里小・賀美小が統合した。同年に里美中学校が共有する屋内運動場の建設が完了した。平成27年度に、旧屋内運動場の取壊し及び外構工事を行った。平成28年度には残りの外構工事が完了し、すべての事業が完了となった。</li> <li>・金砂郷統合中学校整備については、統合校舎建築を平成27年8月に完了した。平成29年度には屋内運動場を改築し、平成30年度には外構工事を実施し、<b>事業完了予定</b>である。</li> </ul>					
教育行政 評価委員 による意見	<p>児童生徒数の減少に伴う学校統廃合はやむを得ない状況である。学級の適正規模などの教育環境を第一に捉え、保護者や地域住民との意見交換について丁寧に対応をされたい。</p>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	各学校が、学校評価、県学力診断のためのテスト、全国学力・学習状況調査、体力テスト等の分析と改善策及び生徒指導上の実態に基づいた課題解決を目指したり、地域の特性を生かした教育活動を取り入れたりしながら、特色ある学校づくりを推進することにより、児童生徒一人一人の「夢育」を推進する。					
現状と課題	・各学校が自校のよさや課題を分析し、児童生徒の力を高めるための適切な事業計画を作成した上で実施している。事業計画は、学校や地域の特徴・よさに基づき、自校の児童生徒の伸ばしたい力を明確にした上で作成している。また、ヒアリングにおいては、目的の明確化と活動内容の妥当性も検討の上で実施している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	活力ある学校づくり推進事業	学校としての特色と学校の教育目標の具現化を明確に打ち出した教育活動を充実させる。	学校の主体的な教育実践による学校の活性化(地域の教育力の活用、市学校教育指針の具現化、効果的な学校評価の実践等) 児童生徒一人一人の実態や地域の実態に応じた教育効果の向上(学力向上、道徳的実践力の育成、家庭学習の習慣化、体力の増進、郷土を愛する心)			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	活力ある学校づくり推進事業	体力テスト総合評価(A+B)の割合〔小学校〕	64%	66%	66%	
		体力テスト総合評価(A+B)の割合〔中学校〕	58%	60%	60%	
		評価報告書(4段階)	3.6	3.7	3.6	
		「授業がわかる」と答える児童生徒の割合	91%	92%	94%	
「学校が楽しい」と答える児童生徒の割合		94%	94%	93%		
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	本事業の趣旨が浸透し、各学校とも自校のよさや課題を明確にした上で、地域や児童生徒の実態を踏まえた体験活動や学力向上を目指した日常的な取組、外部講師の招聘等が効果的に位置づけられ、さらに積極的な事業推進が図られてきている。また、自校の特色を生かした教育活動を展開することに意欲的であり、郷土常陸太田市への愛着を育む活動にも積極的である。しかし、過去3年ほど成果としての数値が停滞している。これは課題解決への重点化が不十分であること、組織としての共通実践事項が共有化されていないこと、事業内容のマンネリ化などが考えられる。今後、プランの連動を各学校でさらに意識させるとともに、よりダイナミックかつ創造的な教育活動が展開されるよう助言指導していきたい。そして学校の主体性が生かせるよう活動内容の枠組みに自由度をもたせ、各学校を支援したい。					
教育行政評価委員による意見	各学校においてそれぞれの地域の実情に合わせた取組が推進されている。学校ホームページを見ても、見やすく内容が充実されていた。郷土常陸太田市への愛着を育む活動にも積極的に進め、より一層、活力ある学校づくりをPRして欲しい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	学校や児童生徒一人一人のニーズに応じた支援を行い、「夢育」を推進するために必要な「生きる力」の育成を図る。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模の小学校9校に、それぞれ1名ずつTT非常勤講師を配置し、チームティーチングによる学習指導方法を取り入れ、各学校においてきめ細かな指導を行っている。</li> <li>・特別支援教育指導員は、19名を11小学校、1名を1中学校と教育支援センターに配置し、特別な教育支援を必要とする児童生徒に対して学校生活上の介助や学習支援、生活支援、安全支援を行っている。</li> <li>・各校とも限られた時間を有効活用し、児童生徒の学力向上に資するよう指導の工夫改善に努める。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	TT特別配置	各学校で課題が見られる教科や学年に配置し、効果的に活用する。	複数の指導者による支援は、児童生徒一人一人の実態に応じたきめ細かな対応が可能となり、学習意欲の向上に効果が大きい。よって、学力向上に果たしている役割は大きい。			b
	特別支援教育指導員配置	学校生活上の介助や学習支援、生活支援、安全支援を行う。	対象児童生徒に対する適切な個別支援が進められており、学習機会の保障及び学校生活における安全確保ができています。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	TT特別配置	TT配置学校数	9	9	8(9)	b
	特別支援教育指導員配置	特別支援教育指導員の配置人数	19	19	19	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級担任が教育指導に専念し、一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導のために、非常勤講師を有効活用することは、さらなる学力向上に効果的である。また、専門的な指導ができる特別支援学校との連携を一層推進する。</li> <li>・きめ細かな支援を要する児童が顕著に見られる。また、より専門性を伴う支援が必要な児童生徒への対応は、不十分な面もある。非常勤であるが、十分な打合せを行うなど各学校とも限られた時間を最大限に有効活用して、児童生徒が安心して学べるよう指導の工夫・改善、一人一人のニーズに応じた特別支援教育の充実に努める。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導を図るため、チームティーチングによる学習指導方法を導入することは大きな効果が期待される。また、特別支援教育指導員の配置については、家庭(保護者)や関係機関との連携を密にし、効果的な支援につなげていってほしい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	児童一人一人の科学に関する関心、意欲や科学的思考を高めるために、学校教育や生涯学習における児童の理科を学ぶ機会を保障するとともに、実技研修会の開催により、教員の理科指導力向上と学校における指導体制の充実を図る。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて教科として「理科」の指導が入る小学校3・4学年の指導担当者を対象として、科学的な関心・意欲や思考力を高める指導法の研修会を行っている。</li> <li>・理科指導における教員全体の指導技術の向上を図るため、基本的な実験実技や新しい教材開発などの実技研修会を行っている。</li> <li>・楽しい理科授業づくりと教員の指導力向上のために、校内外の研修への積極的な参加や授業をバックアップする方法をさらに工夫する必要がある。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	未来を拓く常陸太田っ子サイエンスプロジェクト事業	理科指導法研修会の実施	理科実技研修や入門期の理科指導法研修会により、理科の授業に苦手意識を持つ小学校教員の指導力向上につながった。			a
		外部講師の活用	外部指導者の活用により、ものづくりや野外活動等コース別の研修会が実施できた。			
		科学作品展及び発明工夫展への参加	児童生徒の関心意欲を高め、科学作品や発明工夫作品の県北地区展での入賞者を維持することができた。			
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	未来を拓く常陸太田っ子サイエンスプロジェクト事業	入門期における理科指導法研修会の実施回数	5	6	1	a
		小学校3・4年担当教員の参加人数(延べ)	102	98	13	
		科学作品展及び発明工夫展入賞者数(県北地区展)	28	27	28	
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理科指導に関して、化学作品展の結果や計画訪問における授業の様子等から、小学校全体での取組が進んでいること、積極的に担任が授業研究に取り組んでいることなど、好ましい状況であると判断したため、指導法研修会を1回として各学校から1名の参加の研修会へと変更した。変更後も科学作品展の結果が好ましい状況が見られること、児童生徒が理科の授業に意欲的であることが好ましい状況である。今後もこの状況を継続していくために、児童生徒の学習状況を見極めていく。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	科学作品展や発明工夫展入賞者数が維持されていることはよいこと。学校教育における理科指導だけではなく、生涯学習課で行う自然や科学に関する講座の充実など、子どもたちにとって、自然・科学に対し興味や関心がわくような取組がされてきた成果であると思われる。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	国際力の育成				担当課	教育総務課・生涯学習課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる						
	第1項	未来を拓く人づくり						
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の海外派遣の充実を図る。</li> <li>・市民に外国語(中国語・英語)を, 市内の外国人に日本語を学ぶ機会を提供し, 国際理解や交流を深める。</li> </ul>							
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に広い視野と国際感覚を養うため海外研修派遣を実施している。</li> <li>・外国語講座の需要が高く, 特に近年の旅行者の増加とともに英語のほか, 中国語の要望が高い。市民のニーズを取り入れた講座を企画している。</li> <li>・外国人に対する日本語講座については, 市内在住外国人が日本語を学ぶとともに, 在日外国人同士の交流の場となり, 日常生活における不安解消の場となっている。</li> </ul> 講座実施回数 40回/平成28年度(週1回実施)							
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価		
	中学生海外研修派遣	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学2年生を対象に, オーストラリアにおいて, 海外研修を実施。学校訪問による授業体験, ホームステイ, 施設見学等を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生に英語や国際社会への関心をたかめさせ, 国際理解教育の推進を図ることができた。</li> </ul>			b		
	外国語講座(中国語・英語)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内在住の中国人や本市ALTの指導により講座を開設。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語学や外国の習慣を学ぶことで国際理解を深めることができた。</li> </ul>			b		
	外国人に対する日本語講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人に対し日本の文化や生活に慣れ親しむため講座を開設。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ボランティアの協力により日本の風土習慣を学び交流を深めることができた。</li> </ul>			b		
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価		
	中学生海外研修派遣	中学生海外研修申込者数	35	35	45	b		
	外国語講座(中国語・英語)	外国語講座受講者数(延人数)	211	152	443	b		
	外国人に対する日本語講座	日本語講座受講者数(延人数)	74	249	109	b		
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要			
			○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生の広い視野と国際感覚を養うため, 研修内容の充実を図りながら実施していく。</li> <li>・平成28年度については, 中国語のほか初級, 実用英会話講座を開設。ALTを講師とした英会話講座は, 市内外受講者から大変好評を得ており, 今後も講座内容の充実を図りたい。</li> <li>・外国人に対する日本語講座については, 受講生が減少しているため, 市内在住外国人に対し広く周知を図っていく。</li> </ul>							
教育行政評価委員による意見	平成28年度は中学生海外研修派遣事業申込者が増加した。国際感覚を養おうとする生徒(保護者)の希望の表れである。オーストラリアは時差も少なく温暖で, 穏やかな国の文化があり, 中学生の研修先として適切である。							

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	多様な学習機会の支援		担当課	生涯学習課・生涯学習センター		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズやまちづくりと連携した学習内容や機会の充実を図る。</li> <li>・市民に地域の素晴らしさを知る学習機会を提供し、地域資源活用の推進を図る。</li> <li>・科学の好きな子どもを育てる。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における社会教育・生涯学習の拠点として設置された公民館において、市民の教養の向上や生活文化の振興を図ることができるように、各分野にわたる公民館活動の活性化を推進しているが、各地区の人口や就業状況等の違いにより公民館の活動内容に大きな開きがあるが、地域の特性を生かした事業を展開していくことが課題である。</li> <li>・地域資源を活用した講座として歴史講座、自然講座や常陸太田探検隊講座等を開催している。講座申込数により特に人気の高い講座は、複数回に分けて実施するなど柔軟に対することが必要である。</li> <li>・現在、小学校や中学校で「理科離れ」が進んでいると言われているが、小さい段階から自然や科学の現象に触れたり、体験を通して理科の好きな子を育てることを目的として取り組んでいる。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	公民館活動活性化対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区公民館に活動の原資となる助成金を交付するとともに、公民館職員の研修や講習会を実施し、各分野バランスのとれた一般教養・家庭教育、健康、女性、青少年、高齢者、スポレク・コミュニティ、趣味の7つの分野に分けた学級・講座等を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民のニーズを的確にとらえたバランスのとれた事業、これまでの自己欲求を満たすだけの事業ではなく、地域コミュニティの振興やネットワークの強化を図り、「人づくり」「まちづくり」に資するため、市内15の公民館において251種の教室、講座を運営し、29,857人の参加者があった。</li> </ul>			b
	地域資源学習講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した歴史講座や自然講座等を開催する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講座や自然講座等、地域資源を活かした講座を実施し豊かな地域資源を再発見していただく学習機会を提供することができた。</li> </ul>			b
子ども科学クラブの開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども科学クラブ実行委員会が主体となって年10回の教室を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学の実験や体験を通して、楽しみながら科学を学び、参加した子どもたちが科学に対して興味関心をもつことができた。</li> </ul>			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	公民館活動活性化対策	公民館事業参加者数(人)	45,149	41,349	29,857	b
	地域資源学習講座	参加者数(人)	494	494	450	b
	子ども科学クラブの開催	参加人数(人)	61	62	71	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動全体のさらなる活性化とともに活動レベルの平準化を図ることが課題である。公民館職員を対象とした研修会を行い個々の資質の向上を図るとともに、地域住民のニーズを的確にとらえた学級、講座等の企画・運営を行ない事業レベルの底上げを行なっていく。</li> <li>・各地域の特色ある史跡、歴史、自然等を生かした講座の企画が今後の課題である。引き続きアンケートなどを基に内容や開催場所、日時等についても検討していく。</li> <li>・子ども科学クラブ事業は、対象学年小学3年生以上、募集人数72名で行っている。低学年にも理解しやすい内容とするよう常に検討しなければならない。独創的な実験や魅力的な工作などを導入し、子どもたちの興味をより一層高めていく。(参加実績はH28年度 71人・平成27年度 62人 であり増加している。)</li> </ul>					

教育行政 評価委員 による意見	公民館活動については、幅広い分野で学級・講座等が開催されている。子ども科学クラブについては、3年生から6年生を対象に開催されているが、子どもたちの興味・関心、理解の程度に応じて、例えば学年別にその内容を変えるなど工夫を凝らしながら事業の推進を図ってほしい。
-----------------------	--

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	地域文化活動への支援		担当課	生涯学習センター		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の生涯学習に対する意識を高めるとともに、市民一人ひとりの自主的学習を促進し、生涯学習の一層の振興と地域の活性化を図る。</li> <li>市民の芸術や文化活動、教養を高める自主的な活動を活発化するため、活動や発表の場を提供する。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>各地区において、特色を活かした生涯学習フェスティバル等を開催しているが参加団体が固定化されている地区がみられるので、参加者の拡充が課題である。</li> <li>生涯学習センター 【生涯学習フェスティバル】 2月25日(土)・26日(日) 生涯学習センター・市民交流センター 学習成果発表(実技、実演、展示)、芸能祭、子供体験コーナー 来場者:7,500人</li> <li>金砂郷学習センター【芸術文化の祭典inかなさごう】 11月26日(土)・27日(日) 交流センターふじ 作品展示、芸能発表 来場者:3,000人</li> <li>水府学習センター 【水府地区きらめきフェスティバル】 11月19日(土)・20日(日) 水府総合センター 作品展、芸能発表、リサイクルブックフェア、健康チェックコーナー、フリーマーケット 来場者:2,500人</li> <li>里美学習センター 【里美文化祭・かかし祭芸能発表】 10月30日(日)～11月6日(日) 8日間 里美文化センター・ふれあい館イベント広場 作品展、芸能発表会、野点体験、絵手紙教室、かな料紙、囲碁大会 来場者:3,400人</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	生涯学習フェスティバル等の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学習センターにおいて、それぞれ地域の特色を活かした生涯学習成果発表会を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者には、日頃の生涯学習の成果の発表をすることにより、更なる学習意欲の高揚になっている。また、来場者には公民館講座の内容や市内で活動している生涯学習サークル等の紹介の場になっている。</li> </ul>			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	生涯学習フェスティバル等開催	参加団体数	157	148	147	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった	B 一定の成果があった	C 見直しや改善が必要			
		○				
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習フェスティバルは、各学習センターを利用する様々な生涯学習団体の成果発表の場である。</li> <li>多くの生涯学習サークル等の活動を市民に周知する場となっており、各種サークルを積極的にアピールし、市民に対して学習センターが主催する講座と合わせ、積極的な参加を求めていく。</li> <li>生涯学習団体の発足や拡充発展の機会となる生涯学習講座の開催及び関係団体、関係課等との連携により、生涯学習活動の活性化に努める。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	フェスティバルに参加する団体の固定化が見受けられ、生涯学習団体の育成については難しい課題となっている。生涯学習の振興と地域の活性化の2つの柱を視点に置いて施策の展開をしてもらいたい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	地域文化活動への支援		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	・市民の芸術や文化活動、教養を高める自主的な活動を活発化するため、活動や発表の場を提供する。					
現状と課題	<p>・市の助成により、市内の音楽関係団体や芸能文化団体が一堂に会した発表を行い、市民に鑑賞や発表の機会を提供している。来場者についても実績を上げている。</p> <p>・市民の芸術文化活動の発表の場として、市美術展覧会、ひたちおおた芸能祭等の文化事業を開催している。</p> <p>・市民交流センターの管理運営を指定管理制度に移行し、指定管理者による効率的な運営やサービスの向上を図っている。</p> <p>【指定管理者の取組】 照明器具(蛍光灯)のLED化による需用費削減 トイレ手洗場の自動水栓化で水道料金削減</p>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	美術展覧会開催	・市民等の創作活動の成果発表の場として、美術展覧会を開催する。	・市民及び市内各小中学校に参加を呼び掛けて市美術展覧会を開催した。			b
	文化振興補助	・文化団体が実施する文化公演事業に対し補助を行う。(5事業)	・当該補助により各種文化事業が開催された サマーふれあいコンサート 市民ふれあいコンサート 都々逸全国大会 ひたちおおた芸能祭 ほか			b
市民交流センター管理運営	・指定管理制度の導入 ・収支の黒字化	・指定管理者独自のノウハウを用いて事業を実施し、指定管理受託初年度から継続して黒字収支を継続している。			b	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	美術展覧会開催	一般の部出品点数(件)	184	169	167	b
	文化振興補助	事業の入場者数(人)	3,000	3,000	3,000	b
	市民交流センター管理運営	利用者数(人)	112,927	110,387	98,593	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<p>・より多くの市民に関心を持たれるような公演事業を多く取り入れ、利用者数の増を図る。</p> <p>・指定管理者と連携を密にし、効率的な運営やサービスの向上を図る。</p> <p>・美術展覧会の出品数の増を図るため、周知・PR活動に取り組むとともに、展覧会の内容の充実を図る。</p>					
教育行政評価委員による意見	市民交流センターの企画については、高齢者世帯が多い本市の場合、高齢者層をターゲットにしたイベントの方が集客力が期待できるが、子育て支援を掲げているので、子どもや若者世帯を対象にした事業の展開を図ってもらいたい。ロビーコンサートでは、気軽に身近に音楽を楽しむことができる。地元出身者の演奏会なども取り入れられており、地域の活性化が期待される。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動への支援		担当課	スポーツ振興課		
総合計画における位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第2項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	・子どもから高齢者や障害者まで、誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽に楽しくスポーツ・レクリエーションに親しめるよう環境整備を進める。					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少子高齢化が進む中で、市民の誰もが体力や年齢などに応じてスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう各種の教室や大会を開催するとともに、こうした活動に適切な指導・助言ができる指導者の養成・確保に努めている。</li> <li>・運動習慣のきっかけづくりとしてチャレンジデー、市民健康スポーツデー、体力測定、ラジオ体操の習慣化に取り組み、スポーツ推進委員協議会並びに体育協会等との連携を図りながら、スポーツ実施率の向上と市民の健康づくりを推進している。</li> <li>・体育施設については、親水広場等を整備し市民に親しまれる施設となっているが、一方では施設全体で老朽化が進んでおり、今後、計画的な修繕・改修が必要である。また、マナーの悪い利用者が増えており対応に苦慮している。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	各種スポーツ大会の開催	・市民の体力づくり、競技力向上のために各種スポーツ大会を開催する。	・5大会のうち、駅伝・ロードレースは小中学生を中心とするスポーツ振興に効果があった。登山マラソンは、交流人口増加や市のPRにも貢献できている。			b
	市民体力づくり推進	・市民の健康づくりや体力づくりを目的として、運動習慣づくりの啓発広報及び各種スポーツ教室を開催する。	・ラジオ体操教室、巡回スポーツ、子どもたちを対象とした教室等の実施により、健康づくりやスポーツの振興が図られた。特にラジオ体操については、スポーツ推進委員協議会と連携を図り普及に努めた。			b
	スポーツ施設整備	・市民が安全・安心にスポーツ・レクリエーションに親しめる施設環境の整備を進める。	・施設全体で利用者は32万人を超えており、スポーツの振興が図られている。年々利用者が増えているため、競技場によっては、土日を中心に予約が取りづらい状況がある。			b
温水プール運営	・市民の健康増進を図るため、民間のノウハウを活用した指定管理制度による運営を行う。	・水泳教室や体操教室などの自主事業に積極的に取り組んでおり、収入は増加したが、滅菌設備の改修により臨時休館したため、利用者は前年から1,695人の減となった。			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	各種スポーツ大会の開催	参加者数(人)	3,302	3,087	3,056	b
	市民体力づくり推進	参加者数(人)	28,613	32,029	32,538	b
	スポーツ施設整備	体育施設利用者数(人)	335,588	359,723	324,768	b
	温水プール運営	温水プール利用者数(人)	54,050	55,357	53,662	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少と高齢化が進む中において、健康でいきいきと市民が生活できる環境を進めるために、市民がそれぞれの年齢や体力に応じてスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加し、楽しみながら健康づくりができる各種事業を推進する。</li> <li>・スポーツを通じた市民の健康づくりに資するため、ラジオ体操の習慣化を推進する。</li> <li>・子どもたちのスポーツ環境の充実を図るため、ゴールデンエイジといわれるジュニア世代(3歳から小学校6年生)を対象とした事業の充実を図る。</li> <li>・老朽化した施設については、施設整備計画を策定し、緊急性の高いものから計画的に改修する。</li> <li>・民間の経営で培われた経営手法を活かしてスポーツ施設の管理運営を進めるため、基礎資料を作成する。</li> </ul>					

教育行政  
評価委員  
による意見

ゴールデンエイジといわれるジュニア世代から若者はもちろん、高齢化に対応した年齢層まで広くスポーツやレクリエーションを楽しむ環境が整っている。引き続き、各世代に応じたスポーツの推進を図ってほしい。

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	犯罪のないまちづくり		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	「安らぎのある快適環境」をつくる				
	第3項	安全安心なまちづくり				
施策の目標	・「地域子ども安全ボランティア」や「こどもを守る110番の家」など、地域住民の協力を得ながら登下校時の子どもの安全を確保する。					
現状と課題	・子どもの安全確保のため、「こどもを守る110番の家」の拡充、地域子ども安全ボランティアとの連携強化により、地域ぐるみの防犯活動を推進する。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	子どもの安全対策強化	・登下校時の児童生徒の安全を確保するため、地域子ども安全ボランティアの登録推進や研修会の実施。	・保護者や地域住民が、地域子ども安全ボランティアとして、登下校の見守りや、あいさつ・声かけ運動を行うことにより子どもの安全確保が図られた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	子どもの安全対策強化	地域子ども安全ボランティア会員数(人)	768	768	815	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・地域子ども安全ボランティアとの連携を密にし、組織の強化を図る。また、会員数が微増であるがここ数年はボランティア会員数がほぼ横ばいであるが、登下校時の子どもの安全を確保するため、増加促進を図っていく必要がある。					
教育行政評価委員による意見	地域子ども安全ボランティアについては、任意の活動団体となるが、地域ごとに活動に温度差が生じることも否めない。今後、学校統廃合等により通学環境が変わるケースも想定されるので、子どもたちの通学に関し、積極的な見守り体制が構築されるよう工夫を講じてほしい。					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	地産地消の推進		担当課	学校給食センター		
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第1項	地域を支える産業の元気と働く環境づくり				
施策の目標	・学校給食において地場産物を利用拡充し、地産地消の更なる推進を図る。					
現状と課題	<p>(現状)</p> <p>・学校給食における地元産食材の利用状況は、米、醤油、こんにゃく等は全て地元産を使用している。また、長ネギ、きゅうり、大根、白菜、キャベツを中心に多く取り込んでいる。</p> <p>(課題)</p> <p>・生産体制の確立及び整備に取り組んでいるが、露地物野菜のため時期が限られており食材の種類や納入量の安定した確保が難しい。</p>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	地産地消の推進事業	<p>・地元食材にこだわった特別メニューを提供する「地産地消の日」を設け、児童生徒の地域への理解や関心を高める。</p> <p>・米粉パンの導入により、地元産米コシヒカリの消費拡大と安心した給食を提供する。</p>	<p>・地場産物のコシヒカリ米や地元産野菜等の食材導入により、子どもたちが地域との愛着や関心を高め、安全安心な学校給食に活かしている。</p>			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	地産地消の推進事業	学校給食での地場産物の使用割合(%)	56	51	53	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	<p>・JA常陸及び地元産食材取扱業者並びに生産団体との連携を図り、定期的な地元産食材調達を行う。また、現状の食材以外にも地元産の利用できる食材があれば積極的に使用する。</p>					
教育行政評価委員による意見	<p>地産地消の給食の提供については、運営コストが高くなる課題があるが、子どもたちの地元への愛着や安全安心の視点から、引き続き積極的に活用して欲しい。併せて、子どもたちに地元産のよさ、愛校心や愛着心を育む取組について、引き続き、工夫を講じて欲しい。</p>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	歴史資源の確保・活用		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第2項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の活用を積極的に進めることで、市民が文化財をもっと身近に感じ、その重要性和保護の必要性を啓発する。</li> <li>・市民との協働により、文化財の保護・活用体制の充実を図る。</li> <li>・文化財の整備を進め、後世に伝えていくとともに、地域の資源として積極的な活用を図る体制をつくる。</li> <li>・郷土資料館の企画展やイベント内容の充実を図り、新規来館者及びリピーターを確保する。</li> </ul>					
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所有者が主体となって、国、県、市の補助金等を活用しながら文化財の維持管理に努めているが、多額の費用を要するため、所有者の自己負担額も多い。また、所有者の高齢化により今後管理が十分にできなくなる恐れがある。</li> <li>・災害復旧事業(徳川墓所)が平成28年度で完了することから、今後の文化財の調査・管理・活用については、現状を総合的に把握したうえで計画を立案したうえで事業を進めていく必要がある。</li> <li>・指定文化財については公開の体制が確立され、地域・大学と協働による公開も行われ、周辺市町村にも波及して浸透しているが、さらなる公開ができる体制を確立する必要がある。</li> <li>・埋蔵文化財専門職員が配置されて国庫補助事業の採択を得ているが、今後の調査を進める上ではさらなる人員体制の充実が必要である。</li> <li>・郷土資料館は管理を委託しているNPO法人と連携しながら、多くの方に来場してもらえるような魅力ある展示・イベントを開催する必要がある。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	指定文化財公開推進	・指定文化財集中曝涼の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公開24ヶ所で、延11,481名が来場(市内18ヶ所:6193人,市外6ヶ所5,288人)</li> <li>・茨城大生の解説ボランティア</li> </ul>			b
	文化財保護普及啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財ガイドブック・絵はがき(2種類)の販売</li> <li>・歴史のさんぽ道スタンプラリー開催(小学5年生)</li> <li>・歴史の道全国大会の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財ガイドブック販売 112冊</li> <li>・文化財絵はがき販売 59組</li> <li>・スタンプラリー達成者 7名</li> <li>・歴史の道全国講演会 450名</li> <li>・歴史の道ウォーキング 147名</li> </ul>			b
	指定文化財保存整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内遺跡調査</li> <li>・西山御殿保存活用計画策定(1年目/2ヶ年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に伴う試掘調査</li> <li>・策定委員会の実施(3回)次年度完成</li> </ul>			b
	郷土資料館整備事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・所蔵資料の調査・整理</li> <li>・企画展の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員有資格臨時職員1名雇用</li> <li>・企画展11回開催したこと、更には県北アート芸術祭が行われたことにより、来館者数は過去最大の35,501人となった。</li> </ul>			a
	指定文化財等災害復旧事業	・水戸徳川家墓所	・災害復旧事業完了			b
成果を示す主な指標	指標名(単位)		H26	H27	H28	評価
	指定文化財公開推進	指定文化財集中曝涼延べ来場者数	6,154	7,003	6,193	b
	文化財保護普及啓発	文化財ガイドブック有償頒布数	163	136	112	b
	郷土資料館企画展開催	企画展開催期間中の1日平均入場者数(人)	92	56	118	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					

<p>課題と 今後の方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10回目を迎えた指定文化財集中曝涼は、前年比800人程度減少しているが、茨城大学の学生による展示資料の解説も内容が充実し、来場者からも地域からも好評であった。県内他市でも同様の取組が始まり、広がりを見せており、今後はマンネリ化しないような工夫ある取組や他市との連携を図っていく必要がある。</li> <li>・西山御殿(西山荘)は、平成28年3月1日付で正式に国指定史跡及び名勝となった。保存活用計画の策定を進め(平成28～29年度)、計画的に保存活用が図られるように努めていく必要がある。</li> <li>・文化財の計画的な調査及び文化財に関する権限移譲を受けるため、歴史文化基本構想への取組を進める必要がある。また、調査を進めるにあたっては専門知識を持った職員の充実が求められる。</li> <li>・郷土資料館は、年間で35,501人(前年16,542人:前年比115%増)の入館があったが、これは県北アート芸術祭による効果が大きい。前年の数字(平成28年度を除く最大来訪者数)を基準値とし、来訪者をさらに増やすため、定期的な展示替えや、市内外の関係機関・団体と連携を図っていく。</li> </ul>
<p>教育行政 評価委員 による意見</p>	<p>指定文化財集中曝涼の来場者が前年度よりも減少したが、集中曝涼は、市民にとって文化財を最も身近に感じられる機会のひとつとして定着している。引き続き、PRを進めていってほしい。</p>

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	自然・観光資源の環境整備とネットワーク化		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第2項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会構造の変化や個人意識の多様化に伴い、地域コミュニティの衰退や地域の伝統文化等の風化が危惧されていることから、エコミュージアム活動により地域づくりに取り組む市民の自立性が喚起され、地域の良さや誇り、愛着を再認識し、温もりのあるコミュニティーの醸成を図り、更には、地域の人や資源を活かした地域活動(環境整備や交流活動、生産及び経済活動)を推進し、次の世代に引き継ぐことを目的とする。</li> </ul>					
現状と課題	<p>(現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が主体となって、地域資源を認識し、暮らしや地域を見つめ直し、地域への愛情と誇りを持てる活力ある地域づくりを、地域主体で市民主導型の活動となるように支援している。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エコミュージアム活動への更なる市民参加の向上を図る。</li> <li>・中心的に活動を行っている方々の高齢化が進んでいるため後継者の育成が必要である。</li> </ul>					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	エコミュージアム活動の普及啓発活動事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域訪問や説明会及び市広報紙等によるエコミュージアム(地域全体が博物館)の啓発を行い、活動に取り組む地域の拡大を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町会長等への訪問や地域の会議など様々な機会ですべての普及活動を行った。</li> <li>・広報紙、ホームページ等での情報発信による啓発活動を行った。</li> <li>・エコミュージアム活動パネル展を開催した。</li> </ul>			b
	地域資源の再発見活動事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちの住んでいる地域にある自然や歴史、文化資源などを確認し、地域の魅力を再発見する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域内を一緒に探索することにより、地域の良さを再認識し、住民同士の交流図られた。</li> </ul>			b
	地域資源の整備活動事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発見した資源を保全、活用するための整備活動を支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明板、総合案内板及び案内マップを整備することにより、来訪者への利便性の向上が図られた。</li> </ul>			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	エコミュージアム活動	エコミュージアム活動実施数(地域)	21	22	24	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
	○					
課題と今後の方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコミュージアム事業は、地域が主体となるような中長期的な展望にたったものであり、生活に密着した循環型社会の構築を目指し、積極的に推進する必要がある。</li> <li>・また、職員による積極的な地域訪問や説明会を基本としているが、情報媒体を利用した活動の紹介やエコミュージアム活動推進委員による普及啓発活動を推進したい。</li> <li>・今後は、エコミュージアム活動を継続している地域の広域的な活動の展開として連携支援を行いながら、地域が自主展開できる支援も併せて検討していきたい。</li> <li>・活動が停滞している地域に対し、活動再開に向けた働きかけを行う必要がある。</li> </ul>					
教育行政評価委員による意見	<p>エコミュージアム活動は、活動自体が価値あることなので継続して行ってほしい。一方で、地区によっては市民参加の向上に向けて支援を要するところもあるので、地域活性化のために工夫を講じてほしい。</p>					

## 教育委員会施策の点検・評価書(平成28年度事業)

施策名	広域連携・交流の推進		担当課	図書館		
総合計画における位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第2項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	・公共図書館広域利用に関する協定締結により、図書館の直接利用による図書館サービスの向上を図る。					
現状と課題	・5市(日立市, 高萩市, 北茨城市, 福島県いわき市, 常陸太田市)の公共図書館の広域利用に関する協定を締結して平成23年7月から実施しているが、さらに、図書館利用者の利便性向上を図るため生活圏を密にする近隣の公共図書館との広域利用の拡充を推進していく。					
事務事業の成果と評価	事業名	概要	主な成果			評価
	公共図書館広域相互利用	・5市(日立市, 高萩市, 北茨城市, 福島県いわき市, 常陸太田市)の図書館が、広域利用協定市の利用者にそれぞれ図書資料の貸出を行っている。	・地元の図書館へ行くのが不便だった利用者が、他市の図書を借りられるようになり、図書の利用向上が図られた。 利用カード登録者数 …261人 * 他市の利用カード登録者数 日立市……1,437人 高萩市……535人 北茨城市…719人 いわき市 …733人			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H26	H27	H28	評価
	公共図書館広域相互利用	貸出数(冊)	1,707	1,546	1,287	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・5市(常陸太田市, 日立市, 高萩市, 北茨城市, 福島県いわき市)以外の生活圏を密にする公共図書館(東海村, 那珂市, 常陸大宮市)の広域利用について、平成27年度に広域利用拡大に関する検討会を設置して実現に向け推進してきたが、平成28年度において、現時点でのそれぞれの図書館の運営上の実情をふまえ、検討会は白紙に戻すこととし、近隣図書館との広域連携による取組の必要性が生じた場合は、関係図書館において検討するものとする事となった。					
教育行政評価委員による意見	広域利用拡大については、図書利用や市民の利便向上を図るため、生活圏を密にする地域について、公共図書館広域相互利用を再度調整する方向で進めてほしい。					

## 参考 教育委員会の活動状況

### 1 教育委員会委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5名の委員により構成されている。

常陸太田市教育委員会委員【平成29年3月31日現在】

職名	氏名	任期
委員長	小林 憲男	平成25年10月5日から平成29年10月4日まで (平成25年10月7日から委員長職務代理者) (平成26年10月7日から委員長) (平成27年10月7日から委員長) (平成28年10月7日から委員長)
委員長職務代理者	佐川 美都里	平成25年4月1日から平成29年3月31日まで (平成28年4月1日から委員長職務代理者)
委員	大金 隆子	平成27年4月1日から平成31年3月31日まで
委員	稲田 昌孝	平成28年4月1日から平成32年3月31日まで
教育長	中原 一博	平成21年4月1日から平成25年3月31日まで 平成25年4月1日から平成29年3月31日まで

### 2 教育委員会の活動状況について

定例会、臨時会など、平成28年度における本市教育委員会の主な活動状況は、次のとおりである。

年月日	出席委員数	件名
平成28年4月1日	5名	協議会 ・教育委員会事務局新任職員紹介 ・教育委員会委員長職務代理者の指名について ・市教育委員会の行事等について
平成28年4月6日	1名	市内小学校入学式
平成28年4月7日	4名	市内小学校入学式
平成28年4月28日	5名	定例会 ・常陸太田市学校事務の共同実施グループに係る中心校と連携校の指定について ・常陸太田市学校事務共同実施グループ事務長の任命について ・常陸太田市奨学生選考審査委員の委嘱について ・常陸太田市社会教育委員の委嘱について

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・平成28年度教育委員会主要事業の概要について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成28年5月26日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度常陸太田市一般会計補正予算（第1号）案（教育費関係）の編成に対する意見について</li> <li>・常陸太田市教育委員会が所管する公の施設に係る指定管理者の指定の手續等に関する条例施行規則の一部改正について</li> <li>・常陸太田市立小中学校通学費補助金交付要綱の一部改正について</li> <li>・常陸太田市スポーツ大会出場補助金交付要綱の一部改正について</li> <li>・常陸太田市水府海洋センターマイクロバス使用要項の廃止について</li> <li>・常陸太田市社会教育委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について</li> <li>・常陸太田市における女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画について</li> <li>・常陸太田市教科等指導員制度実施要項について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成28年6月23日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について</li> <li>・平成28年第2回市議会定例会（6月定例会）一般質問及び答弁要旨について</li> <li>・常陸太田市学校施設整備計画（案）について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成28年7月11日	5名	<p>第1回総合教育会議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常陸太田市学校施設整備計画について</li> </ul>
平成28年7月22日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度使用小・中学校教科用図書採択について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
平成28年8月26日	5名	<p>定例会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度常陸太田市一般会計補正予算（第2号）案（教育費関係）の編成に対する意見について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>

平成28年9月13日	5名	臨時会 ・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の任免について
平成28年9月28日	5名	定例会 ・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の勤務評定に関する規則の廃止について ・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の勤務評定に関する規程の廃止について ・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について ・常陸太田市教育委員会委員長の選挙について ・平成28年第3回市議会定例会（9月定例会）一般質問及び答弁要旨について ・市教育委員会の行事等について
平成28年10月11日	5名	学校訪問（機初小、佐竹小、世矢小、峰山中）
平成28年10月20日	5名	学校訪問（世矢幼稚園、幸久幼稚園、幸久小、西小沢小）
平成28年10月27日	5名	学校訪問（太田進徳幼稚園、のぞみ幼稚園、世矢中）
平成28年10月27日	5名	定例会 ・常陸太田市立小中学校通学費補助金交付要綱の一部改正について ・常陸太田市障害児就学指導委員会委員の委嘱について ・市教育委員会の行事等について
平成28年11月2日	5名	学校訪問（太田中、誉田小、太田小、瑞竜中）
平成28年11月24日	5名	定例会 ・平成28年度常陸太田市一般会計補正予算（第4号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・平成28年度（平成27年度対象）教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関する報告書について ・平成28年度常陸太田市教育振興大会について ・市教育委員会の行事等について
平成28年12月26日	5名	常陸太田市教育振興大会
平成28年12月26日	5名	定例会 ・教育財産の所管換えについて ・平成28年第4回市議会定例会（12月定例会）一般質問及び答弁要旨について ・水府地区小学校の統合及び中学校との小中一貫教

		育について ・市教育委員会の行事等について
平成29年1月8日	5名	平成29年成人式
平成29年1月18日	5名	第2回総合教育会議 ・水府地区小学校の統合及び中学校との小中一貫教育に係る基本計画（案）について
平成29年1月26日	5名	定例会 ・平成28年度市立中学校卒業式の出席について ・学校給食センターの統合について ・市教育委員会の行事等について
平成29年2月23日	5名	定例会 ・常陸太田市学校給食センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の意見について ・平成28年度常陸太田市一般会計補正予算（第6号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・平成29年度常陸太田市一般会計予算案（教育費関係）の編成に対する意見について ・のぞみ幼稚園の認定こども園への移行に係る基本的な考え方について ・水府地区における認定こども園への移行に係る基本的な考え方について ・教育委員会委員の行事予定について （平成28年3月～4月） ・市教育委員会の行事等について
平成29年3月10日	5名	市内中学校卒業式
平成29年3月16日	5名	定例会 ・県費負担教職員の任免等の内申について ・市教育委員会の行事等について
平成29年3月31日	5名	臨時会 ・常陸太田市公民館長の任命について ・常陸太田市公民館主事の任命について ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・常陸太田市文化財保護審議会委員の委嘱について ・常陸太田市スポーツ推進委員の委嘱について ・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の任免について ・常陸太田市教育委員会事務局処務規程の一部改正

		<p>について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 29 年第 1 回市議会定例会(3 月定例会)一般質問及び答弁要旨について</li> <li>・市教育委員会の行事等について</li> </ul>
<p><b>平成 2 8 年度 教育委員会の会議開催状況</b></p> <p>1 開催回数 1 5 回 (定例会 1 2 回、臨時会 2 回、協議会 1 回)</p> <p>2 議案件数 3 5 件</p> <p>3 報告件数 0 件</p> <p>4 選挙件数 1 件</p>		